

2020年8月9日 (No19)

主日礼拝

司会：山本 潔 奏楽：松村宣恵

前奏 奏楽者
 讃美歌 85 (二回) 一同
 祈り 司会者
 聖書 箴言 9章1～11節
 (旧約聖書1002頁)
 ヨハネ福音書6章52～59節
 (新約聖書176頁) 司会者
 讃美歌 16 一同
 説教 「わたしの肉、わたしの血」
 五味 一 牧師
 讃美歌 441 一同
 献金と感謝の祈り 一同
 主の祈り 62
 頌栄 キリストの平和が (1・5) 一同
 祝祷 一同
 報告

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

- ◇主日礼拝 午後2時 礼拝堂
- ◇お茶の会は、コロナウイルス感染拡大防止のためお休みしています。
- ◇第3回定例役員会

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会
 ・8月12日(水) 午後7時
 コリントの信徒への手紙 ー15章1～11
 (新約聖書320頁)
 讃美歌 449、405

【次週の予定】

◇主日礼拝
 ・8月16日(日) 午後2時 礼拝堂
 ・聖書 士師記6章36～40節
 (旧約聖書391頁)
 ヨハネ福音書7章10～17節
 (新約聖書178頁)
 ・分かち合い 今日の聖書の言葉と一週間
 皆さんで
 ・讃美歌 17、448

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 秋山里子 ④ 佐々木実
- ⑤ 吉田公子 ⑥ 伊藤知之 ⑦ 山根耕平 ⑧ 岸澤恵美
- ⑨ 高崎晋 ⑩ 山本潔 ⑪ 早坂潔

【集会統計】

集会名	参加者	献金
主日礼拝 (8月2日)	22名 (子1名)	14,798円
祈禱会 (8月5日)	5名	

♪本日の讃美歌

♪ 讃美歌 16 「われらの主こそは」。作詞はジョサイア・コンダー(1789-1855)。ロンドンの書店経営の父の下に生まれ、若いときから宗教詩や讃美歌を書きました。讃美歌は言葉が大切です。どんなに慣れ親しみ、荘重で歌いやすくて、表現することばが問題です。歌詞は救いの出来事を指し示し、信仰、思想を言いあらわします。この讃美歌はヨハネの黙示録19章6節「わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。『ハレルヤ、全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた』」にもとづくものです。この点で旧讃美歌(54年版)は問題が多くありました。是非、54年版讃美歌15番と読み比べてください。作曲はレーエフ・ハリソン(1748-1810)。イギリスの非国教会系の牧師です。三拍子の壮大な讃美歌です。速めのテンポで力強く歌うことがすすめられています。

讃美歌 441 「信仰をもて」。作詞はアメリカ人レイ・パルマー(1808-87)。判事の子として生まれ、長じて会衆派の牧師となりました。作曲もアメリカ人のローウェル・メーソン(1792-1872)。独学で多くの楽器の演奏を学び、銀行員として働きながら、教会オルガニスト、教会音楽の指導に務めました。

頌栄 キリストの平和が

1. キリストのへいわが わたしたちのころのすみずみにまでゆきわたりますように
5. キリストのゆるしが わたしたちのころのすみずみにまでゆきわたりますように

【先週の説教要旨】**「貧しい者の神」**

列王上 17:8-16

ヨハネ 6:22-27

「貧しい者の神」、貧乏神ではありません。貧しい者、弱い者の味方である神です。聖書に登場する神ははじめから、権力者から貧しい者、苦しむ者を解放する者として自分を紹介しました。それが「出エジプトの神」です。その働きのために呼び出されたのがモーセです。

イスラエルの預言者の特色は権力の批判と権力からの人々の解放でした。エリヤはその代表的人物です。それを象徴する出来事が「ナボトのブドウ畑の物語」(列王上 21)です。イスラエルの王アハブはナボトに、宮殿に隣接するブドウ畑を譲ってほしいと申し出ました。ナボトは「先祖から伝わる土地」を譲ることは出来ないと断りました。アハブの弱気にあきれた王妃イゼベルは、策を弄してナボトを殺してナボトの土地を強奪しようとしてしました。エリヤはアハブとイゼベルを激しく批判し、数年に及ぶ干ばつを神の審判として預言しました。古代では罪のない者の血が流されると、干ばつ、疫病などの災いが降りかかると考えられていました。

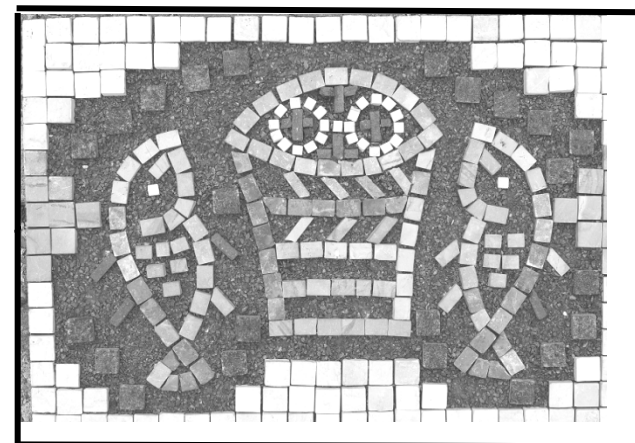
「サレプタのやもめの物語」(列王上 17:8-16)は、この事件を背景にしています。サレプタはアハブの妻イゼベルの出身地フェニキアのシドンの近くにある異邦人の地。海に面していたので干ばつ時でも水があったのでしょう。そこにひとりのやもめがいました。彼女は残った最後の粉と油でパンを焼き、それを食べた後、死を待つつもりでした。そこに登場したエリヤは、彼女に小さなパンをエリヤのために、その後で自分たちのために作りなさい。そうすれば、「再び雨を降らせる日まで、壺の粉は尽きることなく、瓶の油はなくなる。」(列王上 17:14)と預言しました。やもめはエリヤの言ったとおりにしました。こうして彼女もエリヤも、彼女の家の者も食べ物に不足することはありませんでした。

古代世界でやもめは、弱く貧しい者の極みでした。王を批判し、権力に追われるエリヤを受け入れ、養ったのは、権力にもっと遠く離れた、貧しい異邦人のやもめでした。出来事は迫害を逃れるエリヤを通して、預言者の神がどのような神であるかを証明しています。この神こそ出エジプトの神です。同じ趣旨がイエスにあります。「シリア・フェニキアの女の物語」(マルコ 7:24-30) 参照。

ヨハネ福音書は、大麦のパン五つと二匹の魚で5千人を食べさせたイエスこそ、命のパンであると教えます。しかしモーセのパンにこだわる人々はそれを受け入れることが出来ません。出来事のしるしの意味を理解できないからです。イエスが与えるパンは、イエス自身です。イエスに倣い、貧しい者、苦しんでいる者と共になること=人としての、いのちの糧です

日本キリスト教団浦河教会**週報**

No.19 2020年8月9日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043